

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

学校名【 福山市立内海中学校 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	1年生 8名（男子3名・女子5名） 2年生 16名（男子6名・女子10名） 3年生 8名（男子8名・女子0名） 教職員 11名（校長1名・教頭1名・教諭8名・養護教諭1名） 報道関係 山陽新聞社（記者1名）
3 展開の形式	（ ○ ）教科で実施 教科名（ 保健体育 ） （ ○ ）教科以外で実施 （ 道徳 ）
4 目標（ねらい）	人には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人として生きることには喜びを見出すことができる。
5 取組内容	事前学習として、昨年度実施したオリンピック教室で学んだこと（平和の祭典としてのオリンピズム）を確認し、パラリンピック教室に向け、歴史・意義・価値について学習した。また、動画「『未知の力を呼び覚ませ』ミラクルボディ・義足のジャンパー」・「修理工場は眠らない（パラリンピックを支えた職人たち）」を視聴し、感想を交流した。 事後学習として、授業の感想とパラリンピアンへの激励を書かせ、交流した。
6 主な成果	自分自身のハンディキャップに対する偏見を見直すことができた。 むずかしいと思っていた夢をもう一度追いかけてみようと思えた生徒がいた。 パラリンピックについて知り、トップ選手の迫力をじかに感じることもできた。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	オリンピック教室・パラリンピック教室と連続で学習できたことが、生徒にとっては有意義であった。 事前・事後学習を資料を基に丁寧に行ったこと。
8 主な課題等	年間のカリキュラムに位置づけることができていなかったため、一定の期間内での学習にとどまってしまう。 小規模校として小中合同で行える教室の工夫を試みたい。
9 来年度以降の実践予定	道徳の時間の年間授業計画に位置づけて、計画的・継続的な学習になるよう、教育課程を編成する。 また、「JOCオリンピック教室」へ申し込む。